にこり

ながさき

ようこそ、笑顔咲く長崎県へ

Nagasaki Discovery Magazine ni-ko-ri

長崎県

Hisaka & Naru Islands

久賀島 奈留島

祈りの島で暮らす
人々に出会う旅

No.
05

久賀島

ふるさと再発見

まだ見ぬ五島へ

Hisaka Island

五島列島のほぼ中央に浮かぶ久賀島と奈留島。久賀島は五島列島の中でも三番目に大きな島でありながら、人口はわずか四百五十人。かつて厳しいキリシタン迫害が行われ、五島で弾圧が始まった地としての歴史を持つ島である。

久賀島の隣に位置する奈留島は複雑な地形で手つかずの自然が残る島。昔から漁場に恵まれ、約三千人の島民のほとんどが漁業に携わる暮らしを営んでいる。

久賀島には旧五輪教会堂、奈留島には江上天主堂。どちらの島にもユネスコの世界遺産暫定リストに登録されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産候補の教会堂があり、毎年多くの人々が巡礼に訪れる。

今回は五島列島の中でも上陸する機会の少ない、知られざる二つの島の魅力に迫る。

※取材した地域のマップはP22をご覧ください。

奈留島

Naru Island

祈りの島で
出会う旅

浜脇教会堂（久賀島）

浜脇教会堂

Hamawaki Church

久賀島

Hisaka Island

それは、わずか百四十年前のことだった。

福江港から高速船で二十分。田ノ浦港に降り立ち、まず向かったのは船の中から見えた真っ白な浜脇教会堂。五島初の鉄筋コンクリート造りのこの教会堂は、明治十四年に建立された最初の教会堂の老朽化に伴い、昭和六年に建て替えられたもの。それまで木造の小さな教会堂で祈りを捧げてきた信徒たちにとって、頑丈で大きな造りの教会堂はゆるぎない信仰の証だったに違いない。

旧浜脇教会堂は「五輪の地に教会を」という信徒たちのたっての希望で五輪地区へと移された。昭和六十年まで現役だった教会堂は旧五輪教会堂として今も大切に保存されている。

車が通れない細い山道を下り海沿いを歩いていくと、三、四軒の民家と共に旧五輪教会堂が見えてきた。木板に書かれた「天主堂」の文字は、長い年月を経たせいで消えかかってはいるものの、中に一歩足を踏み入れると微笑みをたたえたキリストの姿があった。現存する木造最古の教会堂は損傷が激しい。しかし、傷んだ木の柱や床に信徒たちの祈りが刻まれているような気がした。

最後に訪れたのは牢屋の窄殉教記念聖堂。明治元年、捕らえ

牢屋の窄 殉教記念聖堂

Rouyanosako Church

旧五輪教会堂

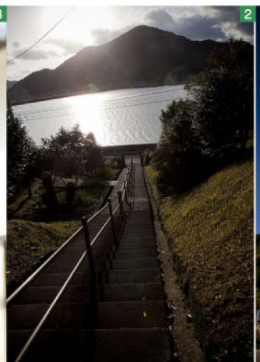
Gorin Church

られた久賀島の信徒たちが残酷な責め苦を受けた場所である。それは、六坪ほどの牢屋に二百名の信徒たちが押し込められ、八ヶ月もの間、排泄さえもその場で行わなければならなかったという想像を絶する悲惨な弾圧だった。この迫害で殉教したのは四十二名。牢屋のあった場所には現在教会堂が建設され、毎年秋に殉教祭が行われている。

教会堂のすぐそばで花壇を耕している女性に出会った。聞けば、彼女の曾祖父もこのとき捕らえられた一人だという。

「まだ六歳だった曾祖父は自分の両親の墓参りをしたいと、やっとの思いで牢屋の隙間から抜け出したそうですが、逃げ出したことがわかるとさらにひどい責め苦を受けると思ったのか、また牢屋に戻ったそうです」。

凄まじい迫害があったとは思えない、あまりにも静かな場所。目の前には牢屋に入った子どもたちが大雪の日にさらされたという久賀湾の夕日、その奥には殉教者たちも見ていた山々がそびえている。女性が植えていたのは金魚草。それは信仰の灯のようにふっくらとした蕾をつけていた。



1 波穏やかな田ノ浦瀬戸に佇む白亜の浜脇教会堂。2 牢屋の窄殉教記念聖堂から見える久賀湾。3「五島市ふるさとガイドの会」の草野末一さん。今回、やさしい語りで久賀島を丁寧に案内してくれた。4 迫害を受けた人の子孫の手で植えられた花々はひっそりと、しかし力強く咲いていた。

五島市ふるさとガイドの会
TEL.0959-72-2083
五島市ふるさとガイドの会 検索

翌朝、奈留島へと向かった。港で出迎えてくれたのは、お揃いの真っ赤なジャンパーを着たNPO法人「DONDON奈留」のみなさん。二十代から七十代のメンバー六十名が在籍するDONDON奈留は、観光の企画や運営を中心に行う、いわば奈留島観光のスペシャリストである。

今回ガイドを担当してくれたのはガイド歴六年の岩村要さん。岩村さんが最初に案内してくれたのは、奈留島を訪れる人が必ず足を運ぶという千畳敷だった。畳が千畳も敷けるほど広いところという意味から名付けられたというこの場所は、干潮時には海岸から大岩、小島へと渡ることができ、釣りのスポットとしても親しまれている。

奈留島の海岸は色とりどりの玉砂利で埋め尽くされている。「玉砂利を煮沸消毒して乾燥さ

奈留島
Naru Island

小さな聖堂に灯る信徒と大工の魂のふれあい

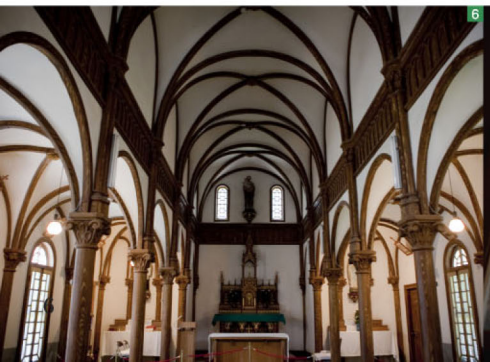
江上天主堂
Egami Church

1ユーモアを交えながら島の魅力を紹介してくれたDONDON奈留の岩村要さん。2以前は島の小中学生が遠足で来ていたという千畳敷。3海岸の玉砂利はブルー、黄色、ピンク…ととても美しい。4千畳敷に遊びに来る子どもたちはきれいな貝殻を拾っては持ち帰るという。

せたら、きれいな箸置きになりますよ」と岩村さん。貝殻を持ち帰る子どもたちも多いそうだ。

城岳展望台へと向かう百段以上の階段を上ると、三百六十度の大パノラマが広がっていた。ここは、葛島、久賀島、福江島、椛島…と五島列島の島々がすべて見渡せる絶景スポット。改めて五島が列島であることを実感した。

世界遺産の候補ともなっている江上天主堂は、教会堂建築の第一人者といわれる鉄川与助が大正七年に手掛けたもの。いま見てもモダンで、どこか可愛らしい雰囲気を漂わせている。強い風から守るように教会堂の前には大きなタブの木がそびえ立ち、風が通りぬけるよう床下をやや高くするなど工夫が凝らされている。他の多くの教会堂と異なるのは、窓がステンドグラスではなく、透明のガラスに桜のモチーフがペンキで描かれていること。ステンドグラスを購入する充分な資金がなかったため、大工たちがステンドグラス風に描いたものだという。長い年月が経ち、ペンキは剥げかかっているものの、彼らが信徒たちに傾けた優しい心がかすかな形としてあちこちに残っていた。



5 江上天主堂のガラスには当時の大工たちが手描きした花のモチーフが残っている。心遣いを受け取った信徒たちはどんなに嬉しかったことだろう。
6 江上天主堂内部はリブ・ヴォールト天井の美しい曲線が印象的。柱の木目模様は大工たちが手描きで施したものだという。その細やかさと技術力に驚く。

NPO法人「DONDON 奈留」
TEL.0959-64-3163

この島は「思いやり」にあふれている

島に来たら「島ごはん」。というわけで、お昼は地元の方に郷土料理を作っていただいた。テーブルに並べられたのは、蕗の佃煮、すり身揚げ、蒸しかまぼこ、きびなごの酢ごろしと田作、生地に黒砂糖を練り込んだ茶まんじゅうなど。料理はどれもやさしい味付けで、特に季節の魚を使った手作りのすり身揚げは、ふんわりとした食感に続いて魚の旨味が口いっぱいに広がる。奈留島では予約をすれば、地元の人たちに教えてもらいながら郷土料理を作る体験ツアーも実施している。

海岸線に沿って車を走らせていると、演歌を大音量で流しながら走ってくるバスに出会った。島唯一の「カーストアー」だという。車で遠くまで出かけることができないお年寄りのための移動販売車である。店主兼運転手の橋口卓臣さんは、十九歳の

カーストアー店主
橋口卓臣さん

頃からこの仕事を始めて今年で四十三年目を迎えるという。改造されたバスには食料品からトイレットペーパーにいたるまで約二千五百品目がぎっしり。曜日によってコースが決まっているそうで、お年寄りたちは大音量の演歌を合図に財布一つでバスの周りに集まってくる。

橋口さんはどの地域に誰が住んでいるかをすべて把握している。いつもの顔が見えないと近所の人に様子を聞き、心配な場合は自宅まで足を運ぶという。お年寄りと笑顔で会話を交わしながら、重い荷物は自宅まで運んでくれる橋口さん。「本当にいつも助かるとです」というお年寄りの言葉には心からの感謝の思いが込められていた。

この日、最後に案内されたのは「三兄弟工房（さんきょうだいこうぼう）」。島の大工さん三兄弟が木を使って一つ一つ手作りしたストラップが評判だという。教会堂や椿などをモチーフにした五島らしいものがある中で、ひときわ目をひくのが、出刃包丁と魚の開きをセットにしたユニークな商品。仕事の合間に作り始めたというこの「でば　ヒラキ」は、昨年「五島新おみやげ発掘コンテスト」で見事第二位に入賞。魚を裏返すと、つい笑ってしまうような面白い絵柄が描かれているのでぜひ現地で見てほしい。その場で名前を彫ってもらったストラップ。自分への素敵なお土産ができた。

1奈留島の新たなお土産としても注目を集めている大工さん手作りのストラップ。2奈留島の名物三兄弟。工房は奈留教会堂から徒歩3分の場所にある。工房ではストラップに自分の名前を入れる体験も行っている。

五島市奈留町浦253　TEL.0959-64-4066

三兄弟工房　検索

出会ったのは、心に染みいる温かさ

翌朝まち歩きを楽しもうと奈留港へ向かった。港のそばには奈留町漁業協同組合の購買部がある。残念ながらこの日は時化のため、水揚げされた魚は少なかったが、多い日は百人ものお客さんが新鮮な魚を求めて行列をつくるという。

「子どもたちが都会に行っても困らないように」と小学校の前に設置された島唯一の信号を渡ると、七十年以上前からこの場所で商売を営んでいるという小さな商店があった。店のおばあちゃんが奈留名物だといって紹介してくれたのは「のしいか」。干したイカを専用の機械で伸ばしたもので、お酒のつまみにぴったりだそうだ。

真っ白な教会堂が見えてきた。まちの中心にそびえる奈留教会

堂である。大正十五年、宿輪（しゅくわ）集落の信徒が自分たちの集落に教会堂を建てたいと神父に申し出たところ、「まちの中心である相ノ浦地区が望ましいだろう」という神父の助言をもとに現在の場所に建てられたという。

まちを歩いていると心温まる風景に出会う。グラウンドでゲートボールを楽しむお年寄りたち、洗濯物と一緒にきびなごやイワシを干している家々、自分の畑からみかんをもぎ取ってきてくれた人、「ぜひ使ってみて」と手作りの石鹸をくれた女性…。出会うたびにかけてくれる優しい声、「食べてみんね」「持っていかんね」のおもてなし。この島の人たちはずっと昔から助け合って生きてきたのだろう。だからこそ、当たり前のように相手を思いやることができるのかもしれない。「ありがとう」の言葉をこんなに口にした旅は初めてだった。

港を離れるとき、DONDON奈留のメンバーが集まってくれた。最後まで一生懸命手を振ってくださった皆さんの真っ赤なジャンパーの胸には「I♡（ラブ）なる」の文字。また帰って来たい島、それが奈留島である。

忘れられない島

長崎には宝がある。
そう思った。

久賀島には
「訪れた人に島の美しい姿を見てほしい」と
四年もの歳月をかけ、
島民たちが手造りした展望台があった。
奈留神社の宮司さんは言った。
「毎日、フェリーの汽笛で時間を知るんです」。

デパートもない。映画館もない。コンビニもない。
でも、島には宝があった。

波音、風の音、鳥の声。
島から島へと渡る船が交差し、
ミサを知らせる鐘の音が響き渡る。

宝にふれたとき、心にふんわりと灯がともった。
「また絶対来んばよ」。

忘れられない島旅は
忘れられない人たちの言葉で彩られている。

ニコリスト

地域特集 久賀島 奈留島

Hisaka Naru Islands

久賀島で描き続ける抽象画の巨匠

松井守男さん

Matsui Morio

このコーナーでは地域を愛する人で、伝統芸能や伝統技術を大切に守り伝えている人やまちおこし・珍しいことに取り組んでいる人などをご紹介します。

和服姿にはにかんだ笑顔が印象的な松井守男さん。一九七〇年代初め、あのパブロ・ピカソから「お前はオレのような画家になる」といわれた経歴を持つ、日本を代表する洋画家である。

フランスのコルシカ島を拠点に活動を続けてきた松井さんが久賀島を初めて訪れたのは二〇〇八年のこと。牢屋の窄殉教記念聖堂を見るために訪れた際、この島の美しさに魅了され、何かが描けると感じたという。それ以来、年間の三分の一ほどを久賀島で過ごす生活を送っている。

松井さんがアトリエに選んだのは廃校になった小学校。子どもの気持ちに戻れる場所で絵を描くのが夢だったからだ。コルシカ島では優雅で満ち足りた暮らしをしている松井さんだが、久賀島での生活はそれとは対照的。甘えのない島の環境は、画家の原点に立ち返らせてくれる。「ここには何もない。だから絵を描くしかないのです」。

島の人たちとの交流も深めてきた。展覧会を開いたり、時には子どもたちに絵を教えることもある。松井さんの目に映る島の子どもたちはみな天才だ。「港で絵を描かせるでしょう。普通は海や山を入れた風景を描くんですが、コンクリートの割れ目から芽を出した植物を描く子がいるんですよ。子どもに聞くと、それがとってもきれいだって言うんです」。

夢は久賀島に大人のための美術学校をつくること。これからは人のためになる、恩返しができるような作品を描き続けたいと松井さんは語ってくれた。

楽天家を自称する松井さんはユーモアを交えながらも、どんな質問にも真摯に、そして熱く答えてくれた。そのエネルギーの源を「愛し続けること」と言い切った松井さん。「コルシカ島以外は興味がなかったのですが、久賀島は本当に美しいと思いました。世界中を見てまわった自分がそう感じたんです。私は自分の作品を久賀島で保管しています。そう、この島にずっといるという私なりの愛を示しているんです」。

コルシカ島が「太陽」なら久賀島は「月」。太陽と月の光を浴びてこそ、松井守男の絵は完成するのだろう。松井さんの絵は光と愛にあふれている。

まついもりお
1942年愛知県豊橋市生まれ。武蔵野美術大学油絵学科卒業後、フランス政府奨学生として渡仏。1998年よりコルシカ島に在住。日本人で初めて2000年に芸術文化勲章、2003年にレジオン・ドヌール勲章の両賞をフランス本国で受賞。2005年愛知万博ではフランス代表画家に選ばれる。2008年より久賀島に滞在し制作を開始。

久賀島は美しい。
世界中を見てきた私が
心からそう思うのです。

きびなごの「いりやき」

きびなご

恵みの歳時記

キラキラ光る五島の名物——福江島

五島を訪れたら必ず食べてほしい魚がある。
とても小さいが、それは食通をうならせる旨さ。
昔から島の生活を支えてきたその魚は、
地元で「きんなご」と呼ばれ、
愛されている。

九州一の漁獲高を誇る五島自慢の絶品魚

五島は日本でも有数のきびなごの産地である。昔から盛んに漁が行われ、島にはキリスト教の信徒たちがきびなご漁で得た収入で建てたという教会堂もある。

きびなごの体長は十センチメートルほど。銀白色の帯と透き通った体が特徴だ。大変きれいな水の中でしか生きていけず、少しでも水から出すと死んでしまう鮮度が命の魚である。鮮度が落ちると腹が赤くなるため、身が透き通っているかどうかが鮮度を見極める決め手である。

きびなごは一年を通して漁獲されるが、五島では資源保護のため二十年ほど前から産卵期の六月と七月は禁漁している。旬は脂がのる秋から冬にかけて。

鮮度が命だからこそ遠くの人にも食べてほしい

秘密は島人の知恵が詰まったシャーベット氷

まだ夜が明けきらぬ午前六時の福江港。次々ときびなご漁から戻ってくる船が着く。水揚げされたばかりのきびなごは、氷と一緒に素早く発砲スチロールの箱に詰められ、長崎や福岡へと出荷される。手は感覚を失うほど冷たいはずなのに、漁師たちはそれを感じさせないスピードで仕事をこなしてゆく。福江港で毎日繰り返されている光景である。

漁師歴五十一年、きびなご漁を専門にして二十年という峯明義さんに話を聞いた。峯さんは多いときで一日五百キロの漁獲量を誇る大ベテランだ。「五島のきんなごはエサや海流が違うのか、とにかく美味しかとです。こぶりで柔らか、身がふんわりしています」。

鮮度が命のため、以前刺身は五島でしか食べられなかった。しかし、五島ふくえ漁業協同組合では試行錯誤を重ねた結果、出荷の際に海水をシャーベット状にした氷を使用することで鮮度を保つことに成功。長崎はもちろん福岡でも刺身で味わうことが可能になった。「福岡にいる二歳の孫がきんなごの刺身ばおいしかって言うてくれるとです」

船が着いたかと思うと、手早く出荷の準備が行われる。その連携プレーは実に見事だ。「仕事を終え風呂に入って、きんなごの刺身で一杯やる。これが最高の朝ごはん」と漁師の峯明義さんは笑って話してくれた。

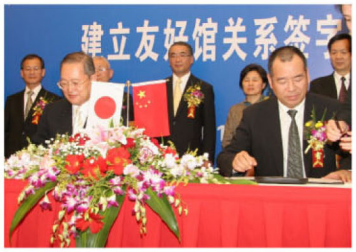
五島ふくえ漁業協同組合
五島市福江町1190-9
TEL.0959-72-5105

と嬉しそうに話す峯さん。「長崎の人にもぜひ食べてほしかですね。一度食べてもらえれば、その美味しさは必ず分かりますから」。長崎市内での消費拡大を目指し、今後はイベントなどで無料で提供する企画も考えているという。「新鮮なきんなごば食べていってください」と婦人部の方が用意してくださったのは「菊盛り」と「いりやき」。水揚げされたばかりのきびなごは身が締まっているため、骨から外れにくく強い弾力があり、菊盛りにするには手間がかかるが、そのぶん味は格別。口に入れた瞬間、島の人が胸を張ってすすめる理由がわかった。自家製の酢味噌との相性も抜群だ。五島の郷土料理として知られるいりやきは、いわば新鮮なきびなごのしゃぶしゃぶである。季節の野菜を入れ、味は醤油のみというシンプルさながら、魚のダシが効いてスープまで美味。魚を丸ごと食べているにも拘わらず臭みもなく、地元の人は味噌汁代わりに毎朝食べているという。まさに絶品の島ごはんである。

TOPICS
トピックス

中国とのさらなる交流拡大をめざして！

～中国福建省等訪問団～



昨年11月、中村知事をはじめ、県議会や各界の代表が、中国の福建省・福州市、廈門市と香港を訪問しました。

各地方政府をはじめ、地元の航空会社や旅行会社などへ「国際チャーター便支援制度」の創設や「孫文・梅屋庄吉と長崎」の情報発信を通じてさらなる交流拡大を図ることをPR。知事自ら中国からの旅行客拡大を目指したセールスを行い、その結果、北京や福建省からのチャーター便の運行計画が示され、将来の国際定期便開設に向けた足掛かりをつかみました。

また、長崎歴史文化博物館が今回、友好交流協定を締結した福建省立福建博物院、香港の孫中山記念館を訪問。今年10月に長崎歴史文化博物館で開催される梅屋庄吉に関する企画展への協力を依頼し、快諾を得ました。

写真上／博物館の調印式　下／孫中山記念館で企画展への協力を依頼

豊かな明日をめざして！

～進む道路網の整備～

開通した浦上川線

昨年11月21日、長崎市内を南北に走る国道と並行して計画された都市計画道路「浦上川線」が全線開通しました。

今回の開通で、九州でも指折りの交通量を誇る国道の慢性的な渋滞が緩和され、地域住民などの安全・安心な日常生活の実現に大きく寄与しています。

県では、地域間の交流を活発にし、産業や観光の振興につながる高速道路網の整備を県内各地で行っており、今春は長崎自動車道と女神大橋を結ぶ「長崎南環状線」、香焼～伊王島間に架かる「伊王島大橋」などが開通する予定です。ますますアクセスが便利になる長崎にぜひお越しください。

EVENTS

2月～4月のイベント情報

まだまだ寒い日が続きます。
長崎には寒さを吹き飛ばすようなイベントが満載です。
今回は皆さんの心もおなかも暖めるようなイベントをご紹介します。

冬の夜を光で彩る

2011長崎ランタンフェスティバル

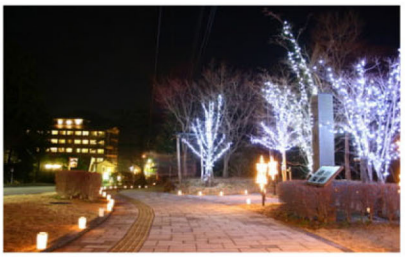
長崎の冬を彩る一大風物詩。約15,000個ものランタンが市内中心部を幻想的に彩ります。中国獅子舞や雑伎、龍踊り、皇帝パレードなどのイベントも開催されます。

期　間／2月3日（木）～17日（木）
会　場／長崎市内（主会場・湊公園）
お問合せ先／長崎ランタンフェスティバル実行委員会
TEL.095-829-1314　又は　長崎ランタンフェスティバル　検索

雲仙温泉 冬の風物詩

雲仙灯りの花ぼうろ

冬の雲仙の霧氷をイメージしたイルミネーションで散歩道がきらびやかに彩られます。期間中は花火のほか、コンサートや地獄のナイトツアーなど、目と耳で楽しむことができます。



期　間／2月5日（土）～26日（土）
会　場／雲仙温泉街
お問合せ先／雲仙灯りの花ぼうろ実行委員会事務局
TEL.0957-73-2233　又は　雲仙観光協会　検索

冬の五島を彩る

五島椿まつり

期間中、五島の歴史や文化、食を活かしたたくさんのイベントやツアーが開催されます。イベントの1つ「奈留島海鮮グルメウォークの旅」では、五島市内の教会巡礼や新鮮魚介類の豪華な舟盛りなどが楽しめます。事前申し込みが必要なものもありますので、お早めにお問合わせください。

期　間／2月11日（金・祝）～27日（日）　会　場／五島市一帯
お問合せ先／五島椿まつり実行委員会　TEL.0959-72-2963

春を感じる雛祭り

平戸温泉城下雛まつり

期　間／2月11日（金・祝）～3月13日（日）
会　場／平戸市街地一帯（平戸城下）
お問合せ先／平戸観光協会
TEL.0950-23-8600

島原城下ひなめぐり

期　間／～3月6日（日）　会　場／島原市内各所
お問合せ先／島原温泉観光協会
TEL.0957-62-3986

～冬の長崎も美味しいものがいっぱい！～

九十九島かき食うカキ祭り＜冬の陣＞
日　程／2月の土・日・祝日　｜　会　場／佐世保市西海パールシーリゾート
お問合せ先／西海パールシーリゾート　｜　TEL.0956-28-4187

平戸ひらめまつり
日　程／～4月3日（日）　｜　会　場／平戸市内参加店舗
お問合せ先／平戸観光協会　｜　TEL.0950-23-8600

松浦とらふぐまつり
日　程／～3月31日（木）　｜　会　場／松浦市内参加店舗
お問合せ先／まつうら海鮮街道実行委員会　｜　TEL.0956-72-2151

旬（とき）さばまつり
日　程／～2月28日（月）　｜　会　場／松浦市内参加店舗
お問合せ先／まつうら海鮮街道実行委員会　｜　TEL.0956-72-2151

その他の県内のイベント情報は、「ながさき旅ネット」でご覧いただけます。
http://www.nagasaki-tabinet.com/
又は　ながさき旅ネット　検索

岩崎彌太郎

龍馬とながさき
Vol.5

三菱重工業（株）長崎造船所立神工場遠景

坂本龍馬と同じ土佐藩出身で、長崎を舞台に活躍した人物に岩崎彌太郎がいる。

慶応二年（一八六六年）、土佐藩士後藤象二郎は長崎貿易を行うことを目的に、西浜町に土佐開成所長崎出張所（土佐商会）を開設。翌年、その主任として抜擢されたのが彌太郎だった。

彌太郎は、坂本龍馬たちとの交流から海運業に着目。樟脳、鰹節、和紙といった土佐の物産を販売して資金をつくり、外国人貿易商を相手に武器や弾薬などを輸入して利益を上げる一方、龍馬率いる海援隊の金庫番としても重要な役割を果たした。

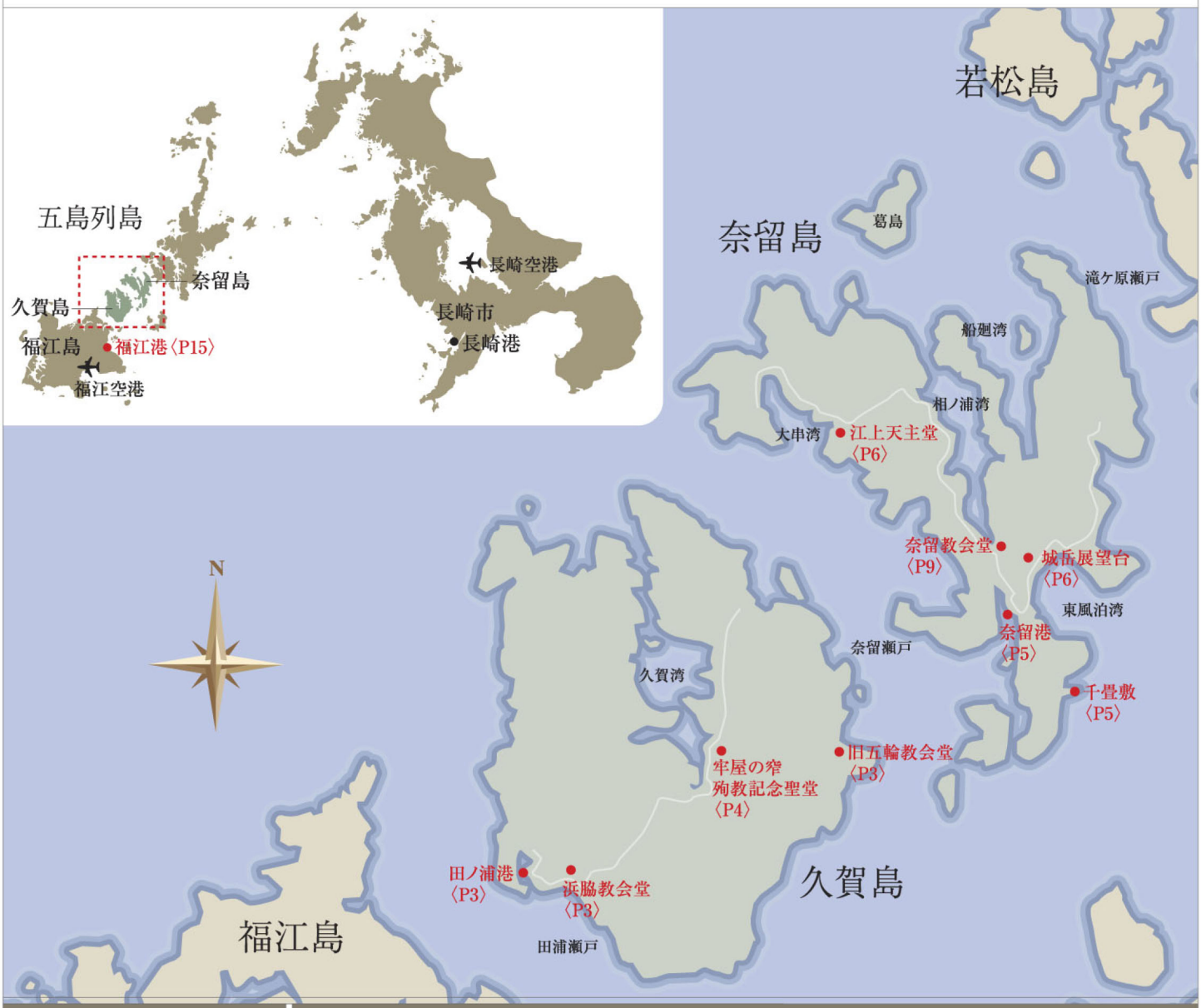
明治六年（一八七三年）には三菱商会を設立。官営の長崎製鉄所を買い上げて事業を拡大し、三菱グループの基礎を築いた。

三菱のマークは、土佐藩山内家の紋である「三葉柏」と、岩崎家の家紋「三階菱」を組み合わせたもので、彌太郎がアレンジしたといわれている。

三菱重工業（株）長崎造船所史料館

長崎造船所の成り立ちと発展の軌跡をたどることで、日本の重工業の歴史を知ることができる史料館。
日本最古の工作機械や、わが国最初の国産陸用蒸気タービンなども展示されている。

場所／長崎市飽の浦町1-1　開館時間／9:00～16:30
休館日／土曜・日曜・祝日などの長崎造船所の休業日　入館料／無料
アクセス／長崎駅から立神、西泊、神の島行きのバスで「飽の浦神社前」または「飽の浦」下車。



お知らせ

見て楽しい！知って得する！
Nagasaki Pref.E-mail Magazine
メルマガ長崎県
NEW

長崎県から第1・第3水曜日の毎月2回、無料で届くメールマガジン。県内の観光情報やおすすめイベント情報などを写真付きでより見やすく、わかりやすくご紹介します。プレゼントコーナーもあります。ぜひご愛読ください。登録はWEBで、

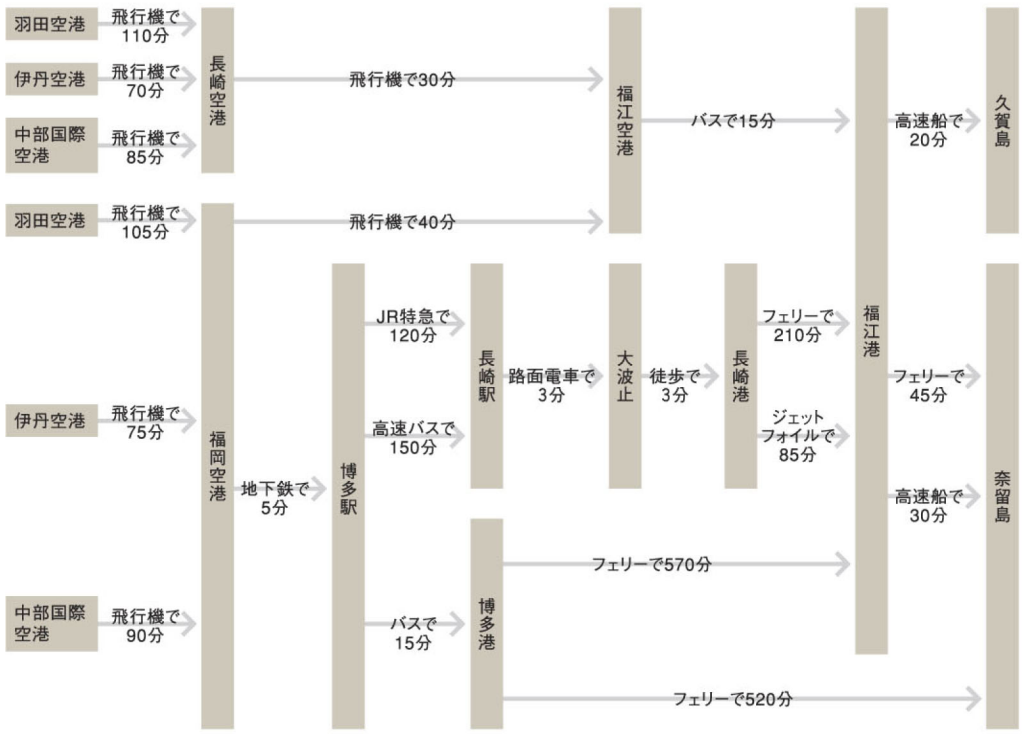
メルマガ長崎県　検索

長崎県インターネット放送局
よかテレ

歴史・文化や物産・観光など長崎県の魅力的な情報をホームページで動画配信しています。プレゼントコーナーもあります。ぜひアクセスしてください。

よかテレ　検索

久賀島・奈留島へのアクセス



※久賀島～奈留島間の定期便はありません。

表紙のはなし　【七福芋】さつま芋の一品種。「白いも」とも呼ばれ、表皮は白味を帯びており甘みがやや強く、食味は良い。五島のシンボルである「かんころもち」にも使われる。

にこり（ながさき）

「ながさき にこり」は
「ながさき夢百景」をリニューアルし、長崎県内の各地域の魅力をよりわかりやすくご紹介します。読んでいて思わずにっこりさせる情報誌を目指します。

平成23年1月発行
編集・発行／長崎県広報広聴課　〒850-8570　長崎市江戸町2-13　Tel.095-895-2021
http://www.pref.nagasaki.jp
デザイン／（有）イーズワークス　印刷／（株）インテックス
※本冊子の内容は、長崎県のホームページでもご覧いただけます。
長崎県

この印刷物は古紙配合率70％以上の再生紙を使用しています。
R70